

令和元年度  
登別市中学生ニュージーランド派遣交流事業  
研修報告書



## 目次

○登別市中学生ニュージーランド派遣交流事業の概要	1
・事業概要	
・研修日程表	
・派遣生徒・引率者名簿	
・派遣日程表	
○研修テーマ	6
マオリの食文化について	
登別市立鷺別中学校	2年 篠田 悠輝
登別市立西陵中学校	1年 小野 智章
日本とマオリの文化の違いについて	
登別市立鷺別中学校	2年 西館 愛音
登別市立鷺別中学校	2年 表 結羽
マオリの音楽・神話・宗教などについて	
登別市立緑陽中学校	2年 成田 葵
北海道登別明日中等教育学校	3年生 大森 春歩
○感想文	15
西館 愛音	: ニュージーランドの物語
表 結羽	: 文化交流
篠田 悠輝	: 楽しかったニュージーランド
小野 智章	: 自然豊かなニュージーランド
成田 葵	: ニュージーランドで学び、考えたこと
大森 春歩	: アオテアロアの思い出
○引率者報告書	25
団 長: 煤 孫 泰洋	登別市総務部企画調整グループ企画主幹
引率者: 大高 由美	登別市総務部企画調整グループ国際交流専門員
○帰国報告会資料[派遣生徒]	35
○帰国報告会資料[引率者]	72

# 事業概要

## ○ 事業概要

### 1 目的

海外の先住民の歴史や文化、取組についての理解を深めることにより、アイヌ文化の継承や多文化共生社会づくり等を担う人材を育成する。

### 2 訪問国及び都市

ニュージーランド：ロトルア市、オークランド市

### 3 派遣期間

令和2年1月8日（水）～ 14日（火）6泊7日

### 4 交流内容

交流訪問：マオリ族の人々が多く住むロトルアのオヒネムツ村  
マオリ族の聖地ロトルア湖の中の無人島モコイア島

施設見学：オークランド博物館、スカイタワー、クイラウ公園  
レインボースプリングス

### 5 研修内容

(1)事前研修：令和元年12月5日（木）～

令和2年1月6日（月）計4回

ニュージーランドの概要の学習、研修テーマの決定、  
英会話、歌の練習など

(2)事後研修：令和2年1月17日（金）～ 1月27日（月）計3回

研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(3)帰国報告会：令和2年1月28日（火）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
12月05日(木)	事前研修①	顔合わせ・自己紹介 ニュージーランドの概要説明 リーダー決定 研修テーマ検討	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
12月09日(月)	第1回保護者説明会		市役所/第一委員会室	18:00~19:30
12月20日(金)	事前研修②	研修テーマ決定 英会話レッスン	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
12月23日(月)	第2回保護者説明会		市役所/第一委員会室	18:00~19:30
12月25日(月)	事前研修③	研修テーマ決定 英会話レッスン	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
01月06日(月)	事前研修④	英会話レッスン 出発直前の確認・連絡等	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
01月07日(火)	(市長へ出発挨拶(派遣者))		市役所/市長応接室	10:00~10:30
01月08日(水)	ニュージーランドへ出発		市役所/裏駐車場	9:30
01月14日(火)	ニュージーランドから帰国		市役所/正面駐車場	17:30頃
01月16日(木)	(市長へ帰国挨拶(派遣者))		市役所/市長応接室	16:30~17:00
01月17日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
01月22日(水)	事後研修②	報告書作成・帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
01月27日(月)	事後研修③	帰国報告会準備	市民会館/大会議室	16:30~18:00
01月28日(火)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立鷺別中学校	2年生	西 舘 愛音
登別市立鷺別中学校	2年生	表 結羽
登別市立鷺別中学校	2年生	篠田 悠輝
登別市立西陵中学校	1年生	小野 智章
登別市立緑陽中学校	2年生	成田 葵
北海道登別明日中等教育学校	3年生	大森 春歩

引率者	団 長	登別市総務部 企画調整グループ 企画主幹	煤 孫 泰洋
	引 率	登別アイヌ協会会長	上武 和臣
	引 率	登別市総務部 企画調整グループ 国際交流専門員	大高 由美

○ 派遣日程表

	到着	出発	種別	交通手段	行程
1日目 (1/8)	-	9:00	集合	(各自)	市役所本庁舎(裏玄関) 集合
	-	9:30	出発	市バス	" 出発
	11:00	-	集合	-	新千歳空港集合【昼食】お弁当
	-	13:26	移動	航空機	新千歳空港より羽田空港へ移動(JL510便 30分遅れ 元の定刻は13:00)
	15:13	15:40	↓	タクシー	羽田空港到着後、タクシーにて成田空港へ移動
	16:25	20:26	↓	航空機	成田空港よりオークランド国際空港へ移動(NZ90便 2時間遅れ 元の定刻は18:30)
	-	-	↓	↓	【機中泊】(夕食、朝食は機内食)
2日目 (1/9)	11:20	-	↓	-	オークランド国際空港に到着(元の定刻は9:05)
	-	11:50	↓	バス	オークランド市内視察に出発
	12:20	13:30	研修	↓	オークランド博物館見学【昼食】お弁当
	14:30	-	移動	-	オークランド空港到着
	-	16:15	↓	航空機	オークランド空港よりロトルア空港へ移動(NZ8155便)
	17:00	17:30	↓	バス	ロトルア空港に到着後、バスで移動
	18:00	19:00	夕食	-	【夕食】ホテル周辺にて(ビュッフェ)
	19:30	-	-	-	ホテルに到着
-	-	宿泊	-	【ロトルア市内泊】※JET PARK HOTEL ROTORUA	
3日目 (1/10)	-	-	朝食	-	【朝食】ホテルにて
	-	9:30	移動	バス	ホテルを出発
	10:00	16:00	研修	↓	マオリ族とのオリジナル交流体験プログラム【ROTORUA EXPERIENCE PROGRAM】1日目 10:00 - 12:30 歓迎式・自己紹介 12:30 - 14:00 昼食 14:00 - 15:00 村内見学(温泉施設、教会、コミュニティエリアなど) 15:00 - 16:00 文化交流(歌と踊り)
	16:30	17:00	研修	↓	クイラウ・パーク(KUIRAU PARK ※温泉ウォーキング(煙が上がっている中を散歩)、無料の足湯施設あり)
	17:15	18:15	研修	↓	ロトルア湖見学
	18:30	-	-	-	ホテルに到着
	-	-	夕食	-	【夕食】ホテル周辺にて(中華料理のコース)
-	-	宿泊	-	【ロトルア市内泊】※JET PARK HOTEL ROTORUA	
4日目 (1/11)	-	-	朝食	-	【朝食】ホテルにて
	-	8:30	移動	バス	ホテルを出発
	9:00	15:30	研修	↓	マオリ族とのオリジナル交流体験プログラム【ROTORUA EXPERIENCE PROGRAM】2日目 9:00 湖畔集合 9:30 ボートでモコイア島へ

					島内の聖地散策、青少年との意見交換、昼食などのプログラムを実施 15:00 ボートに乗船 15:30 湖畔に戻る
	16:00	17:30	研修	↓	レインボースプリングス自然公園
	17:45	19:00	夕食	-	【夕食】スカイラインビュッフェにて
	19:30	-	-	-	ホテルに到着
	-	-	宿泊	-	【ロトルア市内泊】※JET PARK HOTEL ROTORUA
5 日目 (1/12)	-	-	朝食	-	【朝食】ホテルにて
	-	-	研修	徒歩	土産・お買い物タイム (ロトルアホテル周辺)
	-	10:00	移動	バス	ホテルを出発
	10:15	-	↓	-	ロトルア空港到着 【昼食】お弁当
	-	12:45	↓	航空機	ロトルア空港よりオークランド空港へ移動 (NZ8152 便)
	13:30	-	↓	-	オークランド空港に到着
	-	14:30	↓	バス	ホテルへ移動
	15:00	15:30	-	-	チェックイン
	16:00	18:00	研修	-	オークランド市内自主研修
	-	-	夕食	-	【夕食】オークランド市内にて鉄板焼き
	-	-	宿泊	-	【オークランド市内泊】※PRESIDENT HOTEL
6 日目 (1/13)	-	-	朝食	-	【朝食】BOX 朝食にて
	-	6:00	移動	バス	ホテルを出発
	6:45	-	↓	-	オークランド空港到着
	-	12:11	↓	航空機	オークランド空港より成田空港へ移動 (NZ99 元の定刻は 9 : 50)
	-	-	昼夕食	-	【昼食・夕食】機内食
	20:47	-	移動	-	成田空港に到着 (元の定刻は 16 : 50)
	22:30	-	宿泊	-	ホテル東横イン成田へホテルの送迎バスで移動、宿泊
7 日目 (1/14)	-	-	朝食	-	【朝食】ホテルにて 9 : 00 集合
	-	9:20	移動	バス	ホテルを出発
	10:05	11:40	↓	バス	成田空港より羽田空港へ移動 (リムジンバス)
	-	-	昼食	-	【昼食】羽田空港にて各自
	-	13:43	↓	↓	羽田空港より新千歳空港へ移動 (JL517 便)
	15:07	15:45	↓	市バス	新千歳空港に到着 荷物受け取り後、登別へ出発
	17:00	-	-	-	市役所本庁舎 (裏玄関) 到着、解散



# 研修テーマ

## マオリの食文化について

登別市立鷺別中学校 2年 篠田 悠輝  
登別市立西陵中学校 1年 小野 智章

私たちは、マオリ族の皆さんとの2日間の交流体験プログラムを通じて、マオリの「食べ物」や「食文化」について調べてきました。

プログラム初日、「マラエ」というマオリ族の集会所の中にある、食べ物を食べる専用の建物で食事をしました。その建物は「ファレカイ」と名付けられており、もともとその部族の祖先の名前から付けられたということでした。建物は、広い空間で調理する場所が整っており、どこの「マラエ」にもあるそうです。マオリ族にとっては、食事は大切なことの一つであり、食文化でも先祖を大切にすることを感しました。

「ファレカイ」では、マオリ族の伝統食「ハンギ料理」を食べました。マオリ族でもお祝い事など特別な日にしか食べない食事だそうです。「ハンギ」は、もともと地面に穴を掘って籠の中に様々な食材を入れて、その籠を穴に入れ、上から布をかけて、さらにその上から土をかけて蒸した料理です。現在は、蒸し器などを使って作られています。今回の「ハンギ」には、鶏肉、豚肉、じゃがいも、にんじん、かぼちゃ、グリーンピースとコーンのミックス、キャベツ、さつまいも、パンとオリブオイルを混ぜ合わせたものが入っていました。



「ハンギ」の味ですが、鶏肉は蒸してあって柔らかく、豚肉は脂身が多いものの、さっぱりしていました。さつまいもは口に入れた瞬間とろけるような食感で、じゃがいもやかぼちゃは日本の煮物よりも柔らかく食べやすかったです。



味付けは薄味でさっぱりしていました。この「ハンギ」は、食材と食材を混ぜ合わせるのではなく、食材そのものを蒸して料理するのが特徴で、それは食材そのものの味わいを楽しむという考え方からきています。

食べ方としては、基本的に具材を豪快にそのまま食べますが、今回一緒にテーブルを囲んだマオリの人たち中には、パンにバターを塗り、その上に具材を載せて食べている人や、味が薄いので塩をかけている人もいました。マオリ族の皆さんも普段はニュージーランドに暮らしている他の人たちと変わらない食

生活をしています。「ハンギ」は、現代マオリの皆さんにとっても少し薄味に感じるようです。調味料も少なく、素直に食材の味を楽しむ料理でした。日本での食事は調味料を使うことが多く、味をごまかしがちですので、素材の味を味わう経験は貴重なものでした。

また、昔のマオリ族は主食として鶏肉やパン、魚などを食べていました。川でコラという魚やザリガニなどを獲る漁をしていた時期もありました。しかし、外来種のマスが川に入ってきたことと、環境汚染で川が汚れてしまったことで、漁はあまりできなくなってしまったということです。



その他に、マオリ族は木の実をよく食べます。「フェイジョア」というフルーツは夏が旬で甘酸っぱい味が特徴のフルーツです。他にも「りんご」は多くの場所で栽培され、「バナナ」や「グレープフルーツ」も栽培されていました。2日目のモコイア島のプログラムでは、木になっている「プラム」を木の枝などを使い、枝から落として食べました。木の実も大事な食料です。

---

### 【おまけ】 ニュージーランドの食文化について

今回のニュージーランド訪問では、中華料理、鉄板焼き、パッフェなど様々な食事を体験しました。ただ日本の「和食」のように「ニュージーランドならではの料理」は少ないことがわかりました。新しい国であり、イギリスの植民地だったことも影響しているようです。様々な国から移住してきた人がみんな暮らしていることから、各国の料理も本場の味が楽しめます。例えば、僕たちが移住することになっても、「日本食」など馴染みのある食事があるので安心できるのではとも感じました。



他にも、ニュージーランドの肉牛は自然放牧で草を食べているため脂もそれほど多くなく、ヘルシーで美味しいそうです。他の国では、栄養のある飼料を食べさせて育てるため、出荷までは2年ほどですが、ニュージーランドでは自然の草を食べさせて育てるので、3年ほどかかるということです。

また、スーパーマーケットにも行きましたが、ニュージーランドでは1週間に1度「まとめ買い」するのが習慣となっているため、食材のサイズが日本に比べて大きいのが印象的でした。食パンなどは、日本の3斤分くらいの大きさを1斤といった、日本の2～3倍くらいの大きさが普通でした。肉や大きな魚はブロック単位で販売されているほか、調味料もサイズの大きいものがたくさん売られていました。値段を初めに見た時、高いなと思いましたが、日本の何倍もの量なので、逆に割安なのかなと思いました。今回はあまり時間も無かったので、見られなかったものもいろいろあります。冷凍食品なども興味があるので、いつかまたニュージーランドに行くことがあったら、もっとゆっくり、じっくり見てみたいと思います。



初めての国際線で食べた機内食は、2種類からの選択に迷ったり、シートテーブルが小さくて食べにくかったりしました。でも思っていたより美味しかったです。水やジュースも定期的に配られたので、想像していたよりもずっと快適に過ごせました。

今回の旅では、いろいろな経験をしました。マオリ伝統の「ハンギ」をふるまってもらえたのは、とてもありがたかったです。

## 日本とマオリの文化の違いについて

登別市立鷺別中学校 2年 西館 愛音  
登別市立鷺別中学校 2年 表 結羽

私たちは、今回のニュージーランド訪問で、日本とマオリの文化の違いを見て来ようと決めました。マオリの方たちと直接関わった2日間のプログラムでいろいろ感じたことや知ったこと、共通点、違う点をいろいろご紹介します。

まず始めに驚いたのは、建物に入る時にも、きちんとしたルールがあったことです。建物に入る順番は女性、男性の順で、席に着くのは男性が前列、女性が後列でした。これはどこへ行っても変わらないルールようです。また、食事を始める前や船に乗る前など、何かをする前には必ず全員でお祈りをしていました。日本では食事の時、「いただきます。」で始まり、食べ終わったら「ごちそうさまでした。」で締めますが、マオリの場合は終わりのお祈りはありませんでした。そのため、それぞれ食事が終わると、ばらばらに席を立っていたのが、日本とは違うところでした。



マオリの建物は、日本の家とは全く違いました。屋根の真ん中には人の顔の彫刻があり、その人の腕が屋根として伸びているという意味があるそうです。また、柱や入口の周り、天井の梁が、マオリ独特の模様や人間の形の彫刻で飾られていて、色も赤や黄色と鮮やかで、そしてそれぞれの建物に先祖やマオリの勇者の名前が付けられていました。

私たちが会ったマオリの酋長さんは、顔全体に入れ墨を入れていましたが、その模様にも意味があり、所属する部族などを表しているそうです。顔全体に入れ墨のある人はその近隣では、たった5人しかいないということでした。アイヌの人達と同じだと思ったのは、どちらも結婚している女性は口の周りに入れ墨を入れるということでした。ただ、それは昔の話で、今は全員がそうしているわけではありません。また、マオリの人たちは、現在も生きていたら世界最大の鳥であった「モ

ア」の肉を食べた後、その皮や羽毛で着るものを作っていました。アイヌの人たちはシャケを食べたあと、その皮で靴を作っていました。どちらも狩りで捕まえた獲物を上手に利用し、最後まで無駄にしないという、エコの原点ともいえる生活をしていただけだと思いました。

また、庭に温泉がある家も多く、町の中を歩いている時もよく見かけました。毎日温泉に入る人もたくさんいるそうです。辺りの空気の匂いも、登別と似ていて、とても親近感がわきました。ニュージーランドでは、温泉に水着を着て入るのが普通です。



交流プログラム後に訪れた大きな公園には、足湯がありました。その日は、たくさん歩いたあとだったので、とても気持ちよく、足の疲れが癒されました。

昔、マオリもアイヌも、後から入ってきた人たちに、自分たちの土地を侵略され、文化や習慣を否定された似たような歴史があります。アイヌの人たちの中には自分がアイヌであることを隠している人もいますが、私たちの会ったマオリの人たちは、どの人も自分たちがマオリの民族であることをとても誇りに思っていて、隠すようなところは少しもありませんでした。こういうところが、ニュージーランドが民族共生の先進国と言われる理由の一つではないかと感じました。私たちの訪問を受け入れてくれたマオリの大家族は、大人はもちろんのこと、私たちと同年代の子たちも、もっと小さい小学校低学年位の子でさえも、マオリ語で歌を歌い、お祈りもきちんと出来ていました。家族の中で、伝統や習慣をきちんと次の世代に伝えているように見えました。日本でももっと、そのようになっていけば、アイヌの文化や伝統も失われることなく、未来に伝えていけるのではないのでしょうか？

最後に、鼻の頭を2回くっつけ合うマオリ独特の挨拶「ホンギ」を、全員並んで順番に行い、お別れをしてきました。ちょっぴり緊張しましたが、心が温かくなる特別な体験でした。

今回、誇りを持って生きているマオリの人たちに会えて、交流が出来て、とても良かったです。日本での民族共生のために自分たちは何ができるのか、これからみんなで考えていきたいと思っています。



## マオリの音楽・神話・宗教などについて

登別市立緑陽中学校 2年 成田 葵  
北海道登別明日中等教育学校 3回生 大森 春歩

私たちは「マオリの音楽・神話・宗教」について調べてきました。

まずは、「音楽」についてです。

今回の研修では歌と楽器に触れる機会がありました。歓迎の時に聞いた歌は、明るく軽やかなイメージの音楽が多かったです。ウクレレで演奏されるハワイの音楽に似ているように感じました。楽器については、とても親しまれているようで、無人島へ行くときにもギターを持ち込み、暇さえあれば弾いていました。

また、小さいころから楽器に触れて育っているため、現地の人は誰でも楽器が弾けるようで、8歳くらいの小さな子もフルートを吹けるほど親しまれていて驚きました。日本よりも楽器が身近な存在なんだと思いました。

人によっては楽器としてホラ貝を持っている人もいます。

私たちもマオリの人たちとの交流1日目に練習用のフルートやホラ貝を吹かせていただきましたが、うまく音が出せませんでした。

楽器に触れた時に教えていただいたのですが、昔は人骨でフルート



を作っていたそうです。今はもちろん人骨ではありません。鹿、犬、山羊などの骨で作っているそうです。ですが、鹿なんかは捕まえるのも難しいため、海の生き物でもフルートを作れるのかという研究もしているそうです。聞かせていただいた音色の中で、くじらの歯の骨で作られたフルートは高い音でした。骨によって音色が違うことを知りました。

また、ホラ貝は歓迎する際に使用する楽器でもありますが、客人の来訪を告げる際の笛の役割もあったそうです。



これほど楽器が身近になったことにも理由があります。

私たちの研修テーマの1つである「神話」にも関わってくるのですが、昔、モコイア島に住んでいたツタネカイという男性と湖のほとりに住んでいたヒネモアという女性の恋の物語を教えてくださいました。その神話は、この二人が身分違

いの恋をするというところから始まります。

ツタネカイはヒネモアへの想いを伝えるため、フルートを吹いていました。モコイア島は、洞爺湖にある中島の四分の一ほどの小さな無人島で、モコイア島があるロトルア湖は洞爺湖とほぼ同じ大きさだそうです。ヒネモアは湖畔から島



まで、ツタネカイの想いに応えるため泳いで渡り、想いを伝えたそうです。

男性であるツタネカイが湖を泳ぎ切るのであれば納得もしますが、この神話では女性であるヒネモアが泳ぎ切っていて、とても大胆な女性だったんだなと思いました。

昔は男性のみが楽器を弾くことを許されていたそうです。その後、後世へ伝えていくために女性も弾くようになりました。この神話の影響でフルートは恋の歌に使われるようになったそうです。

次に「神話」と「宗教」についてお話ししたいと思います。

モコイア島にマツアトンガという女神の像があったのですが、この女神は「さつまいも」の神様だそうです。マオリ族はポリネシア時代から始まるのですが、その頃には既にこの像を持っていたと言われていました。今もとても大事にしているようで、博物館へ寄贈する話も出たのですが、マオリ族としてはモコイア島にこの像があって欲しいということで、今も博物館に寄贈はされていません。また、この女神像の前には、昔はマオリ族の主食であるさつまいも畑が広がっていたそうです。今は平原となってしまいましたが、ここに再びさつまいも畑を作ろうという計画があるそうです。

ホテルにはタンガロアという神様の仮面がありました。どういうものなのか興味がわいたので、日本に帰った後に少し調べてみました。タンガロアはポリネシア地域で広く大切にされている海の神様で、場所によっては、創造神として崇められています。マオリにおいても重要視されており、信仰の対象となっています。

余談ですが、日本水産がニュージーランドからこの神様の像をもらったそうです。

レインボースプリングスで見ることが出来る「カウリ」という種類の古代樹についても話を聞きました。この木はニュージーランド最古の木であり、マオリには「タネマフタ」と呼ばれています。タネマフタは森の神様のことだそうです。

ニュージーランドの国鳥であるキウイの神話にこのタネマフタが登場します。





昔、タネマフタが枯れている木を発見しました。何故枯れたのか、その原因を調べてみると、地上を這い回る虫が原因だと判明しました。そのため、森の神様は空の神様に頼み、鳥を集めてもらって虫を駆除しようと考えました。

空の神様は鳥を集め、順番に虫の駆除をお願いしました。しかし、どの鳥も承諾してくれませんでした。そして最後に残ったキウイをお願いしたところ、キウイからは「やります」と、承諾がもらえました。



キウイには美しい翼がありましたが、虫の駆除を行うためにはその翼を捨てて、代わりに立派な脚をもって地上に降りねばなりません。空の神様の話を聞いたキウイは「それでもやります」と答えました。

空の神様はキウイの言葉に感動し、「最も愛される鳥となるだろう」と告げました。

その言葉どおり、現在もキウイはニュージーランドで最も愛される鳥になっています。

キウイのほかにも動物に関連したものがあるか調べたところ、フクロウが大事な存在であることがわかりました。マオリ族にとって「フクロウ」は森の番人のような存在だそうです。アイヌ民族にとっても「フクロウ」は村の守護者のような存在ですので、そういった部分は似ていると感じました。

アイヌではシャチのことを「レプンカムイ」と呼んだりしますよね。レプンカムイはラブストーリーが豊富な神様だとか。興味があれば皆さんもぜひ調べてみて下さい。

私が現地で聞いたこと、日本に帰ってきてから知ったことなどから、マオリとアイヌの宗教的な共通点に気がつきました。

すべての物に神様が宿るという考え方は「アニミズム」と言うそうです。

アイヌとマオリはまさにこの「アニミズム」だと思います。

先ほどお話ししたタネマフタのように、木でありながら神様とされていたり、フクロウでありながら番人や守護者として大切にされていたりと、物や動物を擬人化して神として信仰しているところは共通している部分だと思います。

最後になりますが、アイヌ民族とマオリ族の共通点をあと少しだけお話しします。マオリ族の言語についてです。

マオリ族には文字が無く、口の形と声のみで意思疎通をしていたため、言語の解明のためにローマ字を当てたそうです。アイヌ語でも同じですよ。ちなみに、マオリ族の言葉は、母音が「a (あ)」「e (え)」「i (い)」「o (お)」「u (う)」で、母音に1単語つけてローマ字読みに近い発音の仕方をするそうです。日本だと「a (あ)」「i (い)」「u (う)」「e (え)」「o (お)」になりますね。

また、アイヌ民族の女性は口の周りにタトゥーを入れる風習がありますが、それと似ていて、マオリ族の女性は唇から顎にかけてタトゥーを入れるそうです。タトゥーを入れることにも意味があり、地位を表しているとのことでした。

私たちはニュージーランドで「マオリの音楽・神話・宗教」について、いろいろなお話を聞き、マオリ族とアイヌ民族とはまったく違う民族のはずなのに、共通点を見つけて驚いたり、実際に楽器に触らせていただいたりと、とても貴重な体験をすることができました。もう少し聞いてみたいこともありましたし、自分で調べてみたいとも思いました。あっという間に終わってしまったように感じますが、このような貴重な体験ができてとても良かったです。

